

消 息

第34回 医学史研究会

日本医学史学会関西支部 一九九四年秋季合同総会

と き 一九九四年十一月十九日(土)～二十日(日)

と ころ 大阪府保険医協会(大阪市浪速区幸町一―二―三三)

I. 要望課題・病院問題をめぐって 司会 小松 良夫

問題提起……………小松 良夫(寝屋川市)

統計からみた日本の病院……………水野 洋(大阪市)

アメリカの小説にあらわれたアメリカの病院の問題……………松田 方一(奈良市)

わが国における医療抑制政策の展開と老人医療……………神谷 昭典(愛知県)

看護面からみた病院……………大山 正夫(国民医療研究所)

民間病院での在宅医療の取りくみ……………岡谷 銅(奈良市)

結核病棟を有する民間病院の問題点……………島田 永和(羽曳野市)

明治維新時における日本の病院―(株)仙(株)との比較のなか……………上林 茂暢(みさと健和病院)

で……………中川 米造(大阪国際女子大)

病院の意味……………中川 米造(大阪国際女子大)

II. 一般演題

一、大戦のインパクト―世紀の例―栗本 宗治(大阪医大)

二、アスクレピオス神殿の諸相―ギリシャの島、エピダウロウス、ア……………テネソしてベルガマ(トルコ)―

……………石田 純郎(新見女子短大)

三、山本亡羊門人帳にみられる越中人について……………正橋 剛二(富山市)

……………赤祖父一知(金沢大・医)

四、適塾門人生田中信吾の頌徳碑について……………古西義磨(大阪市立旭図書館)

……………佐藤 允夫(山形県)

五、洪庵婦人・緒方八重の終焉の地をめぐって……………寺畑 喜朔(金沢医大)

……………江川 義雄(廿日市市)

六、明治二十六年発行の鍼灸研究誌の目次集……………小野 尚香(大阪大・医)

……………出張仮駆籠院―……………模写図……………中山 沃(西宮市)

……………宗田 一(京都市)

……………安田 純一(西宮市)

……………安田 純一(西宮市)

……………安田 純一(西宮市)

……………安田 純一(西宮市)

……………安田 純一(西宮市)

……………安田 純一(西宮市)

……………安田 純一(西宮市)

……………安田 純一(西宮市)

……………安田 純一(西宮市)

……………安田 純一(西宮市)

……………安田 純一(西宮市)

- .....ハルム・ボイケルス（ライデン大・医）  
 一四、鶴崎平三郎と須磨浦療病院……小松 良夫（寝屋川市）  
 一五、エルメレンス碑のその後、及び阪大医学部史料室  
 .....松田 武（大阪大・医）  
 （長門谷洋治）

例会抄録

ハンガリーのゼンメルワイスの遺跡を訪ねて

蒲原 宏

一九九四年四月二十八日から五月五日までハンガリー、ブタペスト市と近郊のゼンメルワイス (Ignác Fülöp Semmelweis 一八一八・七・一〜六五・八・十三) 関係の遺跡および手沢資料を求めておとずれた紀行を紹介した。

医学史(英・米・独・仏・日)文獻に Ignaz Philipp Semmelweis の名称は Magyar 語の転換用語法による。ゼンメルワイス自身もドイツ語論文で転用している。①日本への伝記紹介で死亡年月日が一八六五年八月十四日とあるものがあるが、八月十三日が正しい。②ゼンメルワイスが産科主任となった聖ルカ病院 (Rókus Kórház) はゼンメルワイス病院と呼ばれていない。③ゼンメルワイス医学史博物館・図書館 (Semmelweis

Orvostörténeti Múzeum, Könyvtáras Levéltár) は一九六五年ゼンメルワイスの生誕百年を記念して、彼の生家の跡に、ほぼ原形にもとづいた復原を行なって建設された。十六世紀以前の文獻一五〇〇点、定期刊行物は十八世紀以後のものがそろっている。現在単行本十一万、定期刊行物二万、論文一万、文書資料抜刷等一万が図書館に収蔵されている。  
 展示部門は古代から現代までに及ぶが、ゼンメルワイス記念室があり、一〇九ケースに、その遺品、一族関係の資料が展示されている。

ゼンメルワイスの遺骨は郊外の Kerepesti 墓地から発掘され、現在はこの博物館内中庭の壁の中に収められ祀られている。

その他のゼンメルワイス関係の遺跡としては、一九六九年創立二百年を記念してブタペスト医科大学がゼンメルワイス医科大学と改称されている。市内にゼンメルワイス通り (Semmelweis Utea) があり、聖ルカ病院は現存し、その正面に一九〇六年九月三十日世界中の募金による大理石のゼンメルワイス彫像がある。

王城内にはゼンメルワイス記念金の薬局博物館がある。その中央外壁に赤子を抱く女性像が象徴的である。

聖ルカ病院の入口廊下には彼がここに勤務していたことを記念する巨大な銅牌が二個飾られている。

日本の助産術において、ゼンメルワイス式の手洗方式が日本に定着してゆくのは、明治十一年(一八七八)年頃から山